

女性に対する暴力根絶の
ためのシンボルマーク

男女間における暴力に関する調査 報告書

< 概要版 >

平成 24 年 4 月

内閣府男女共同参画局

目 次

I 調査の概要	1
II 配偶者からの被害経験	3
III 交際相手からの被害経験	6
IV 異性から無理やりに性交された経験（女性のみ）	9

※当資料は、「男女間における暴力に関する調査報告書」（平成 24 年 4 月）の主要な項目についてまとめたものである。

I 調査の概要

1 調査目的

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（以下、「配偶者暴力防止法」という。）第25条では、「国及び地方公共団体は、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に資するため、加害者の更生のための指導の方法、被害者の心身の健康を回復させるための方法等に関する調査研究の推進並びに被害者の保護に係る人材の養成及び資質の向上に努めるものとする。」と規定している。

また、第3次男女共同参画基本計画では、「女性に対する暴力についての的確な施策を実施し、社会の問題意識を高めるため、被害等の実態を把握することを目的とした調査を、今後も定期的・継続的に実施するとともに、女性に対する暴力の実態が的確に把握できるデータの在り方を検討する。」と規定している。

これまで、平成11年度、14年度、17年度、20年度に、全国20歳以上の男女5,000人（17年度以前は4,500人）を対象に、無作為抽出によるアンケート調査を実施している。前回調査から3年後に当たる本年度は、過去の調査を踏まえつつ、国内の男女間における暴力の実態を把握する。

2 調査対象

- (1) 母集団 全国20歳以上の男女
- (2) 標本数 5,000人
- (3) 抽出法 層化二段無作為抽出法

3 調査時期

平成23年11月～12月

4 調査方法

郵送留置訪問回収法

（回収は、対象者自身が回収用封筒に記入済みの調査票を密封したものを、調査員が回収した。また、対象者本人が希望した場合には、郵送回収とした。）

5 回収結果

- (1) 有効回収数（率） 3,293人（65.9%）

（内訳） 女1,751人 男1,542人

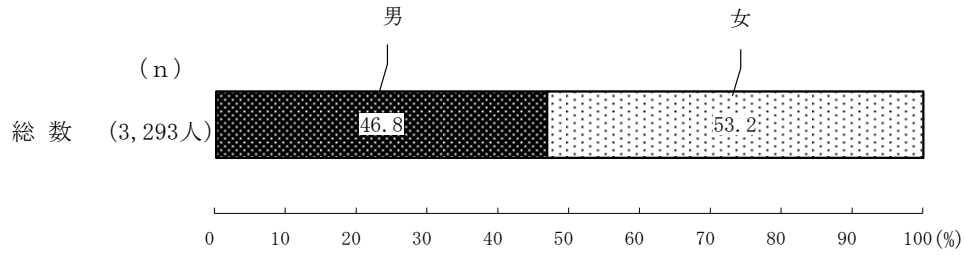
- (2) 回収不能数（率） 1,707人（34.1%）

回収不能理由内訳

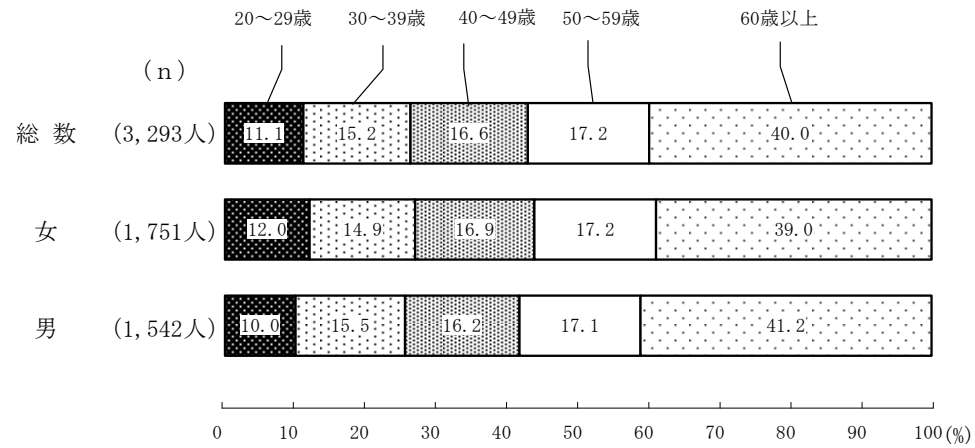
転居	12	(0.2%)	調査票不達	16	(0.3%)
長期不在	86	(1.7%)	白票	108	(2.2%)
短期不在	460	(9.2%)	郵送依頼未回収	165	(3.3%)
住所不明	52	(1.0%)	その他	195	(3.9%)
拒否	613	(12.3%)			

6 回答者の属性

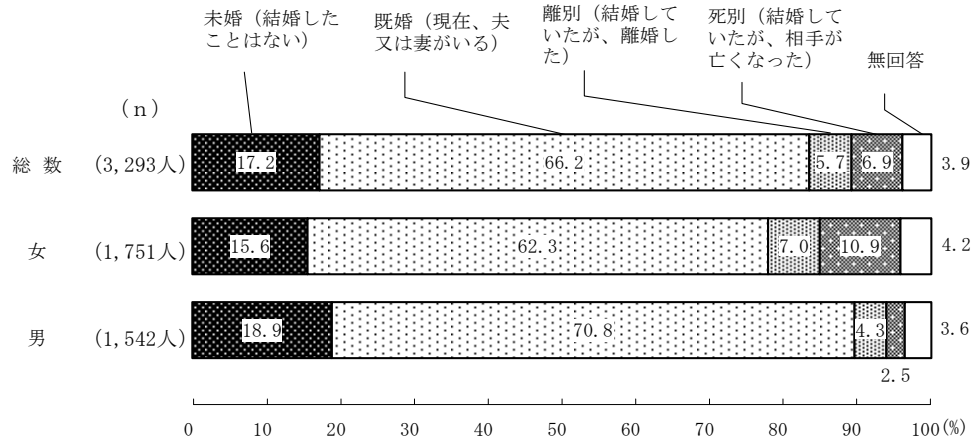
(1) 性別



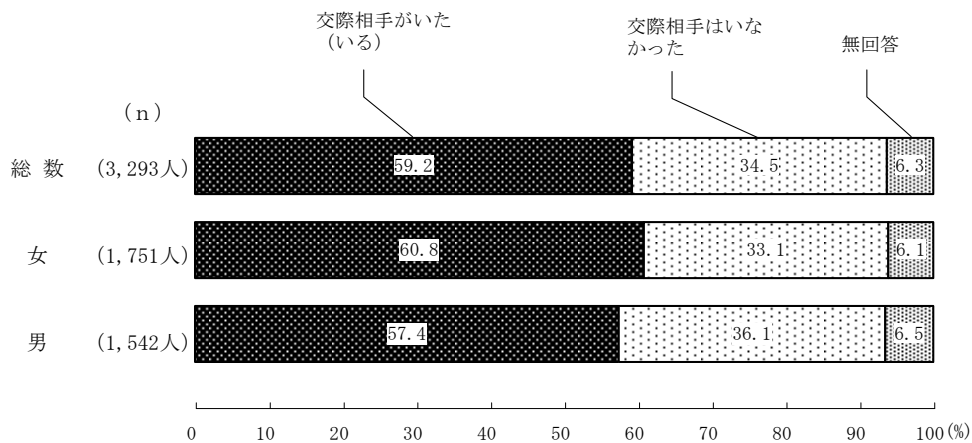
(2) 年齢



(3) 未既婚



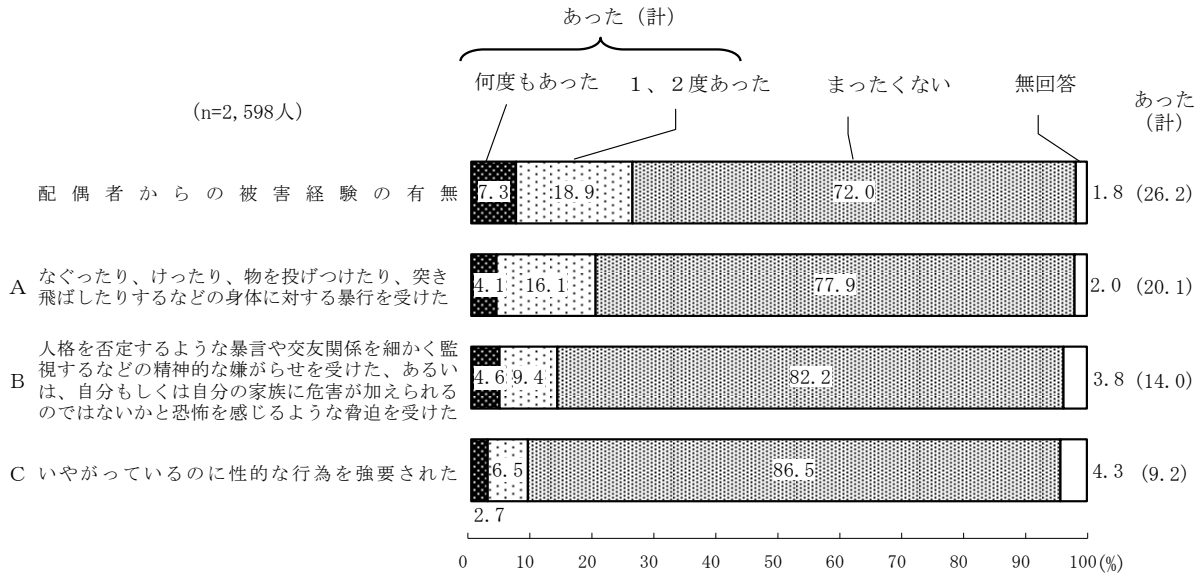
(4) 10歳代から20歳代の頃の交際相手の有無



II 配偶者からの被害経験

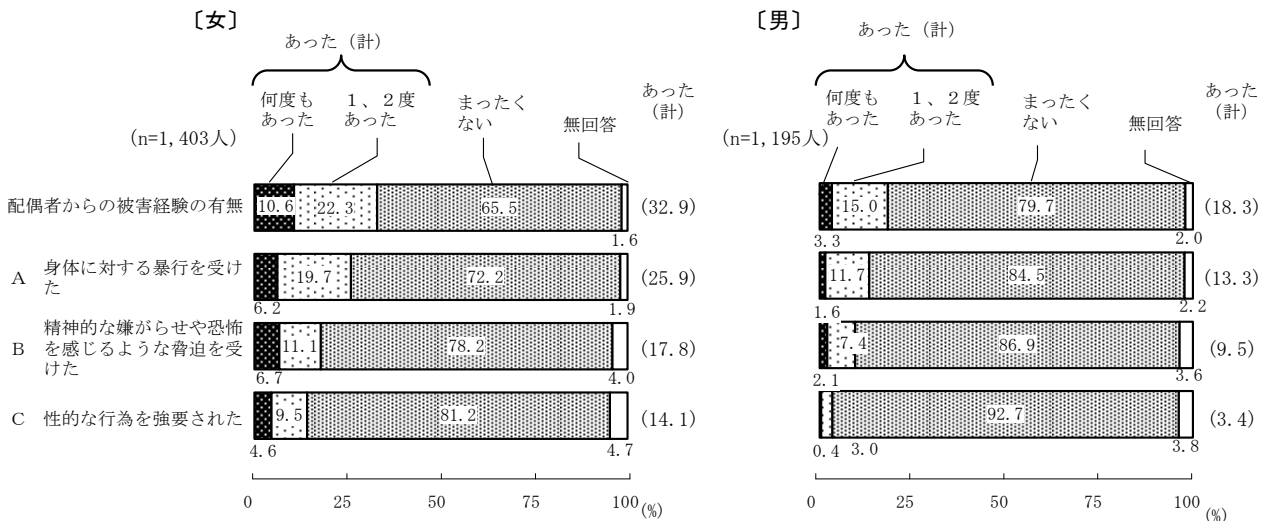
配偶者からの被害経験

約4人に1人は配偶者から被害を受けたことがある



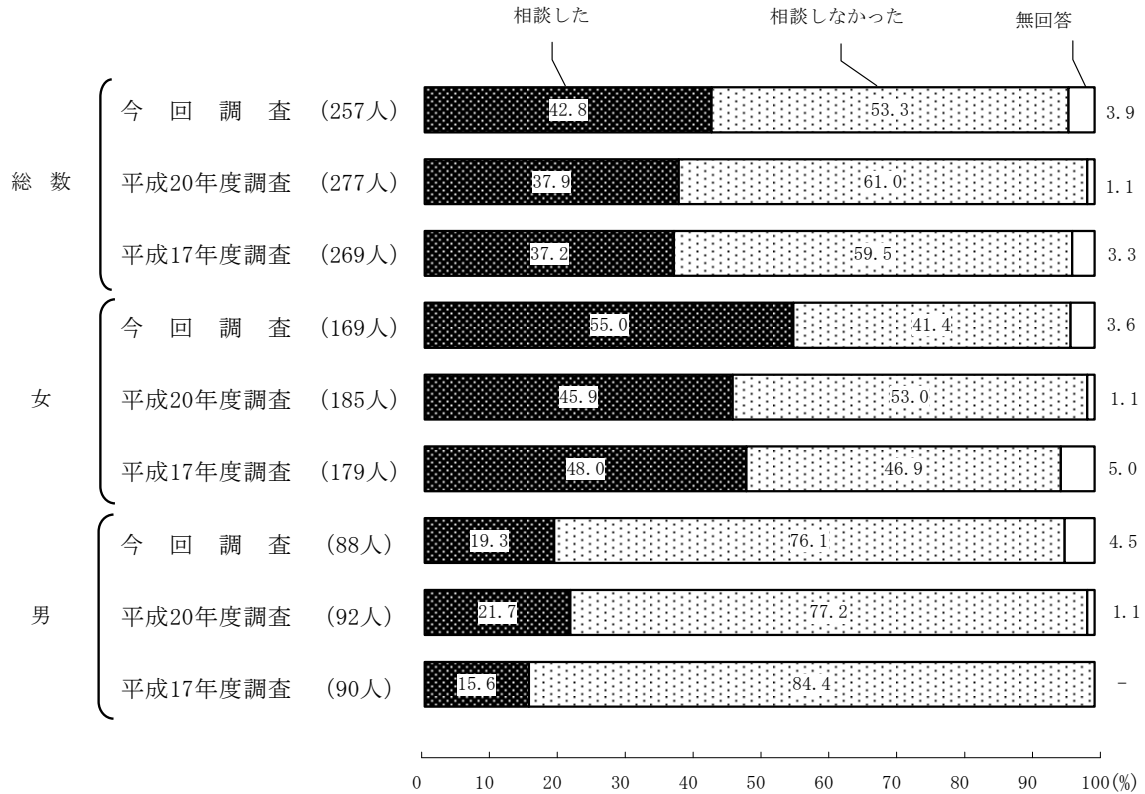
配偶者からの被害経験（男女別）

女性の約3人に1人は配偶者から被害を受けたことがあり、約10人に1人は何度も受けている



配偶者からの被害の相談の有無 — 時系列比較

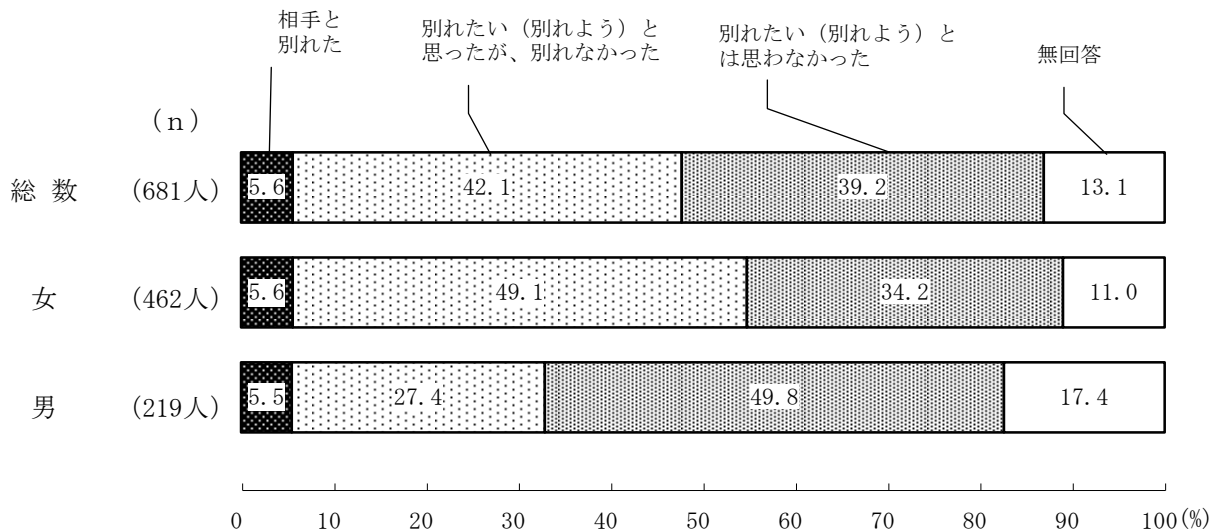
被害を受けた女性の約4割はどこにも相談していない



注) 過去5年以内に配偶者から被害を受けたことがある人の相談の有無である。

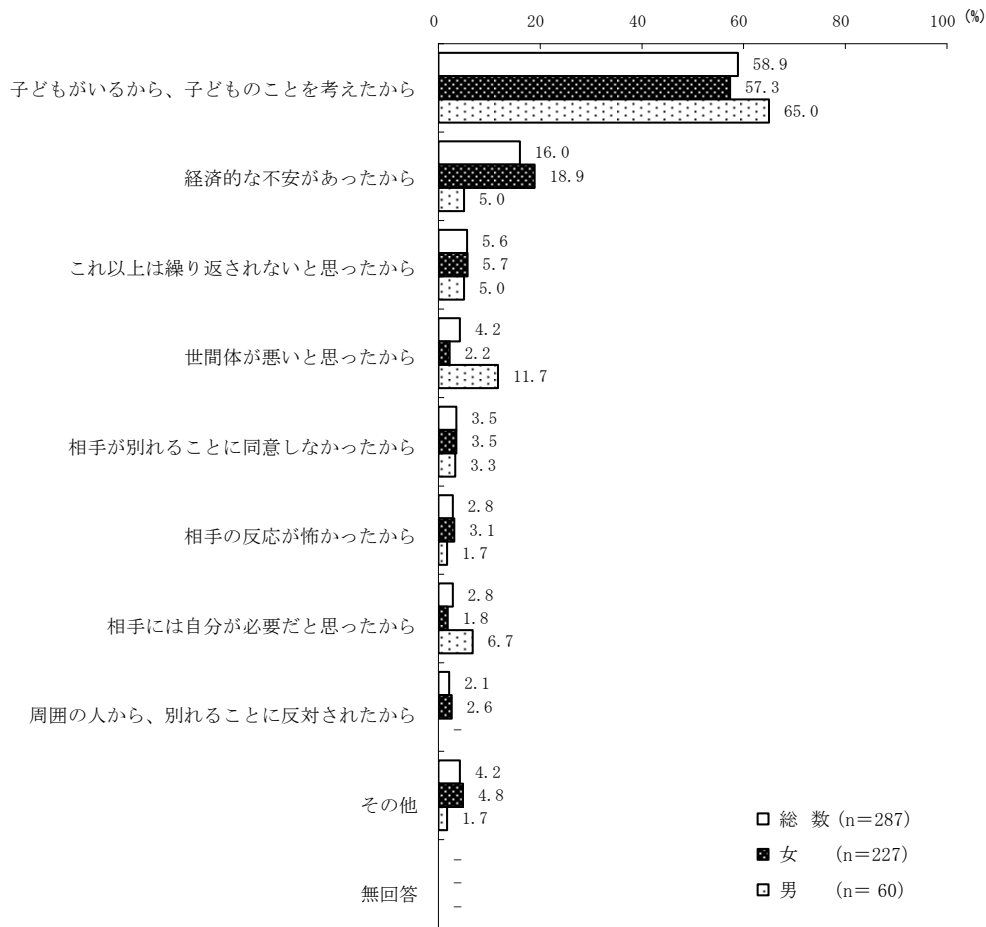
配偶者から最初に被害を受けた時の行動

「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」は、男性より女性が多い



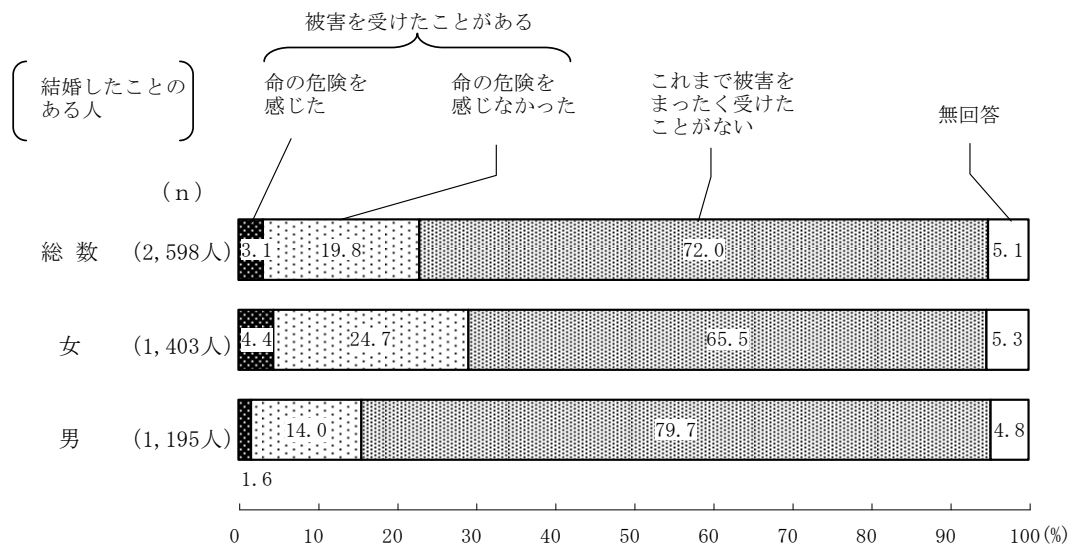
配偶者と別れなかった理由

「子どもがいるから、子どものことを考えたから」が男女とも最も多い



配偶者からの被害により命の危険を感じた経験

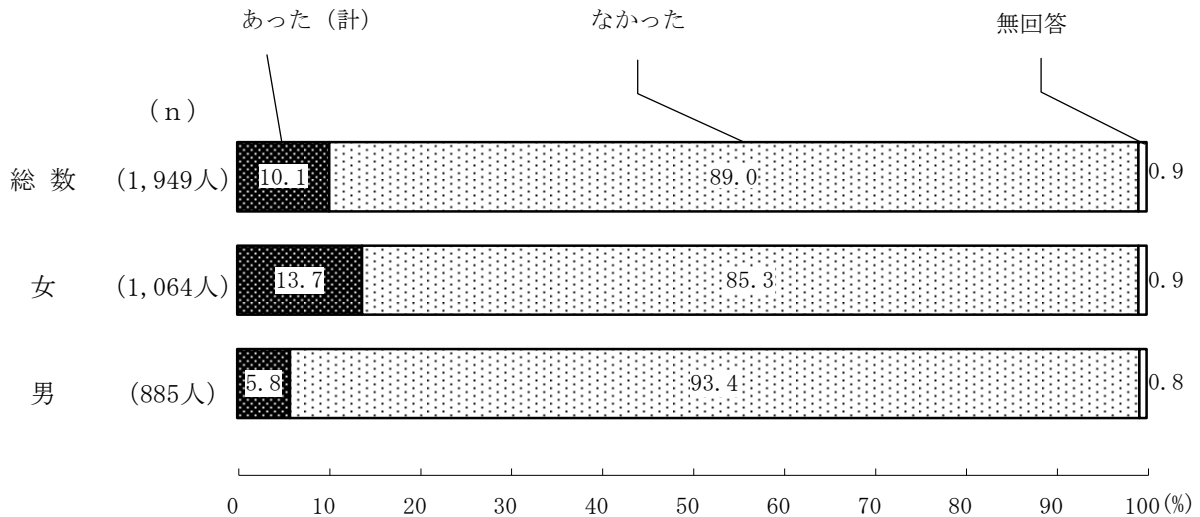
女性の約 20 人に1人は命の危険を感じたことがある



Ⅲ 交際相手からの被害経験

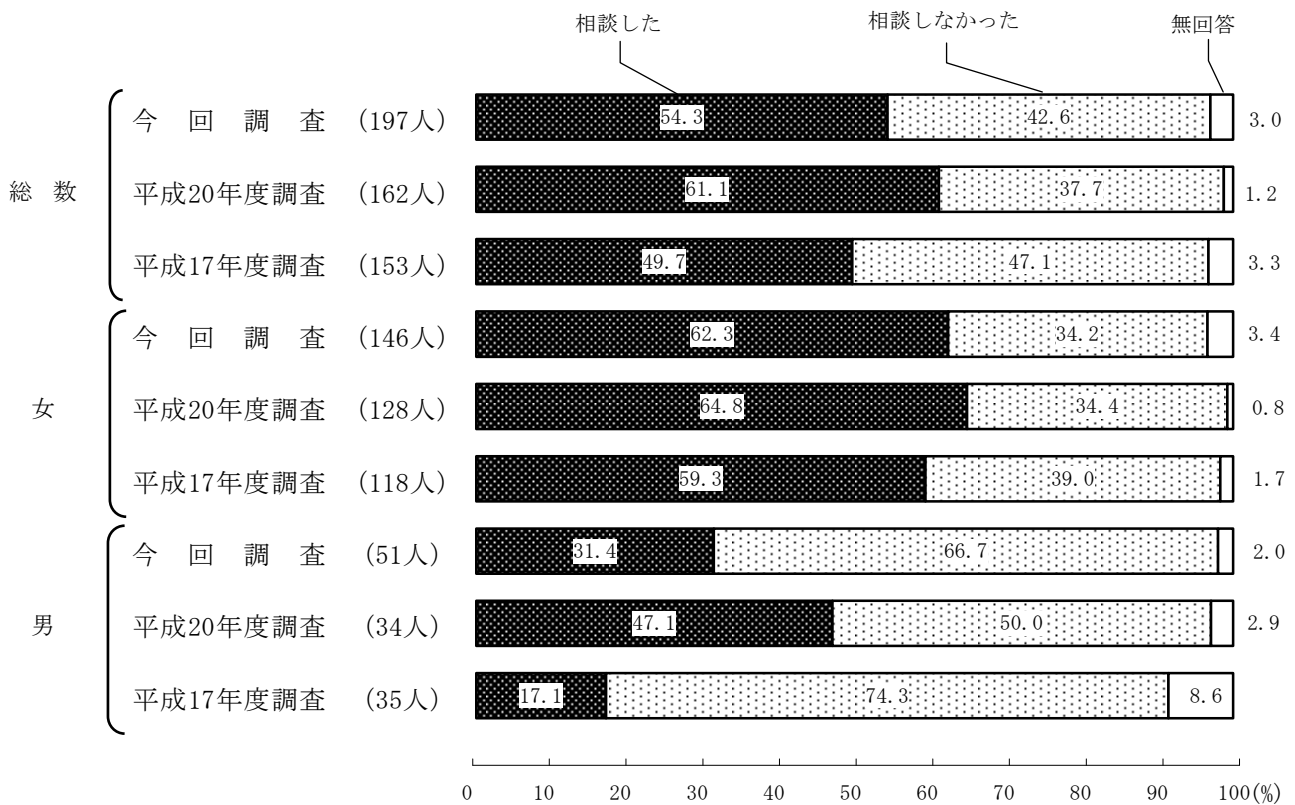
交際相手からの被害経験

約 10 人に 1 人は交際相手から被害を受けたことがある



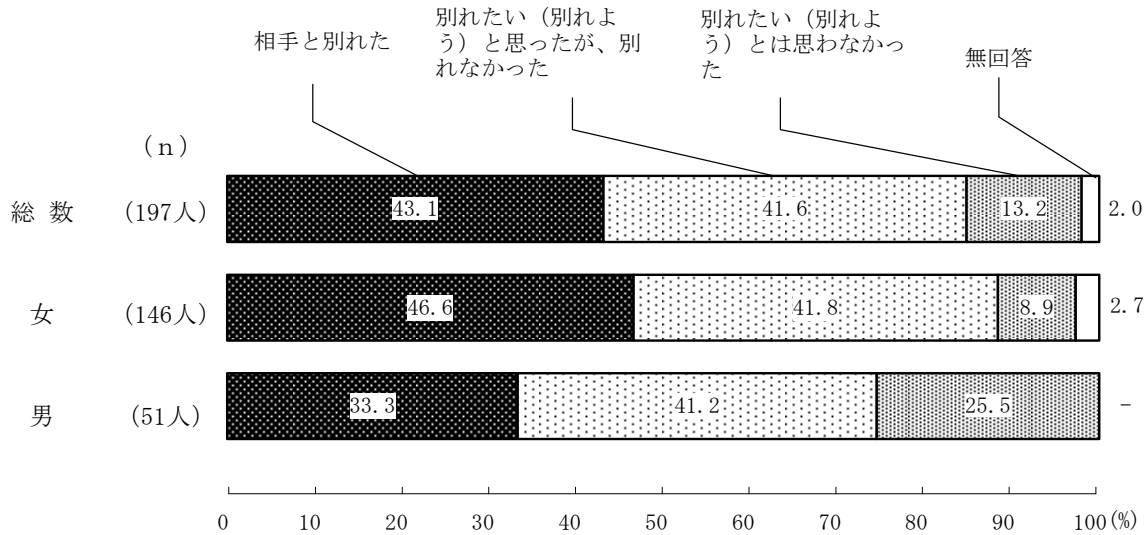
交際相手からの被害の相談の有無 — 時系列比較

被害を受けた女性の約 3 割はどこにも相談していない



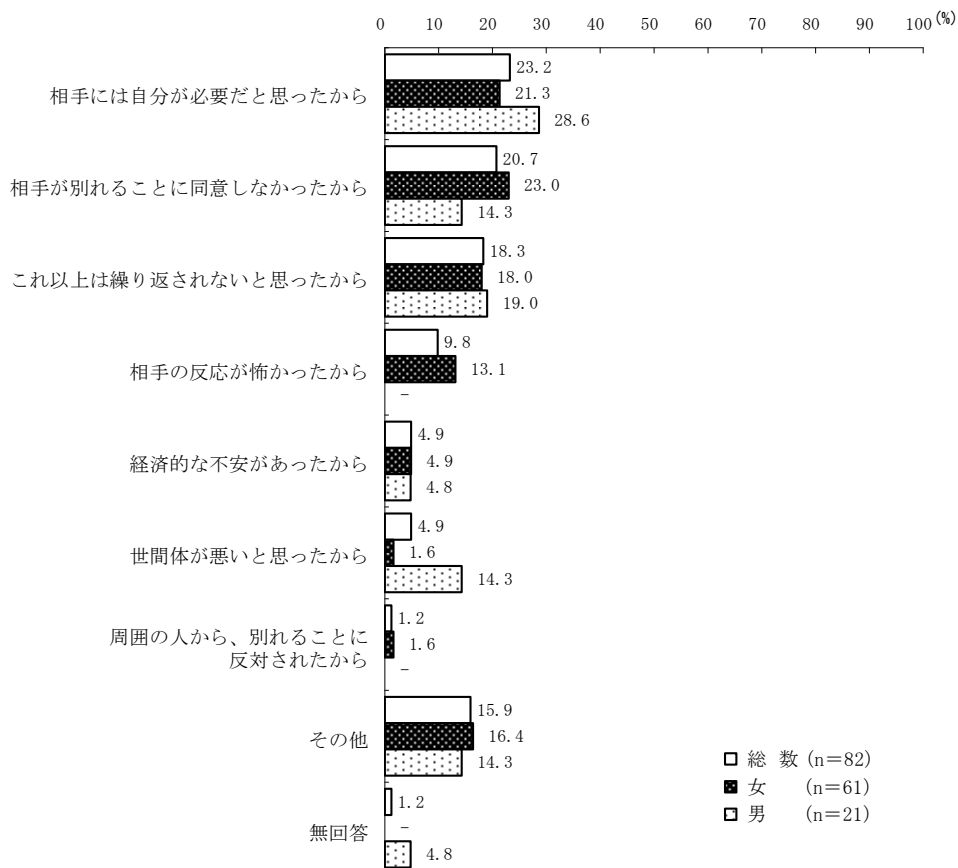
交際相手から最初に被害を受けた時の行動

「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」が、男女とも約 4 割



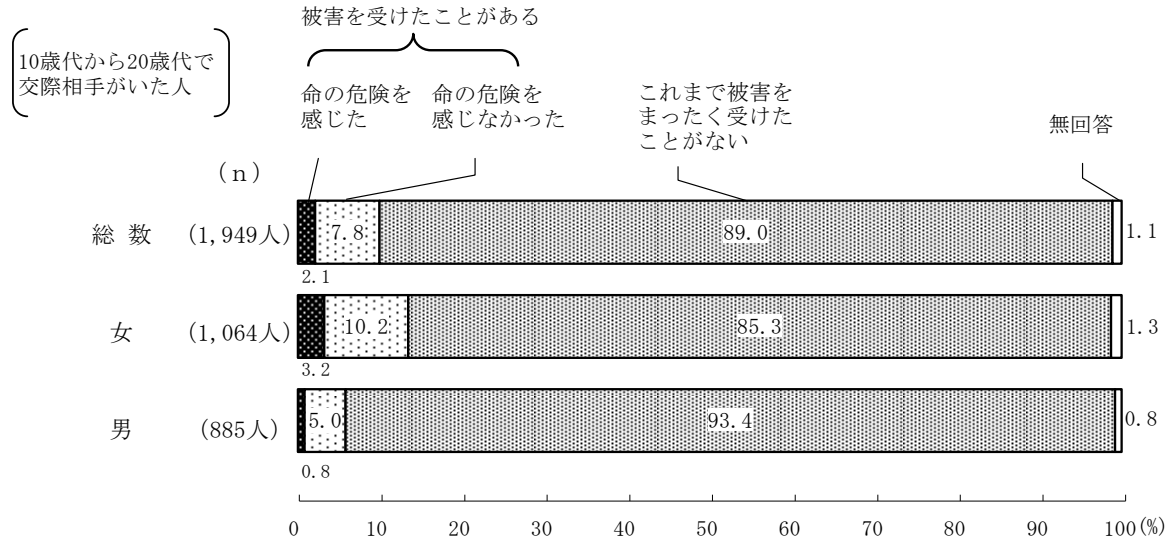
交際相手と別れなかった理由

「相手には自分が必要だと思ったから」、「相手が別れることに同意しなかったから」、「これ以上は繰り返されないと考えたから」が2割前後



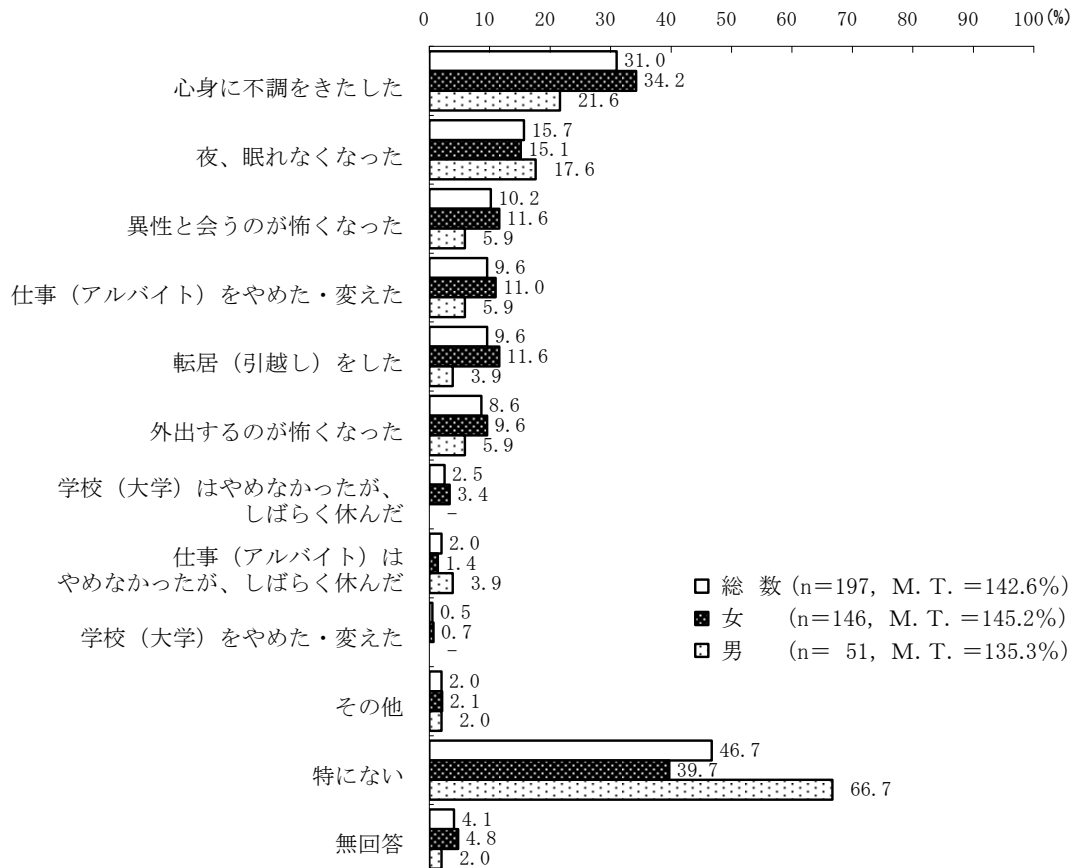
交際相手からの被害により命の危険を感じた経験

女性の約 30 人に 1 人は命の危険を感じたことがある



交際相手からの被害による生活上の変化(複数回答)

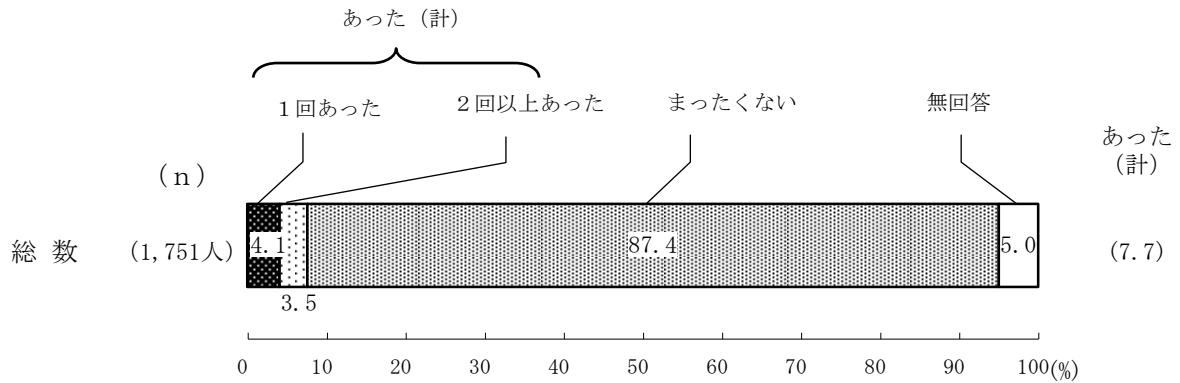
女性が生活上の変化を受けることが多く、約 6 割に生活上の変化があった



IV 異性から無理やりに性交された経験（女性のみ）

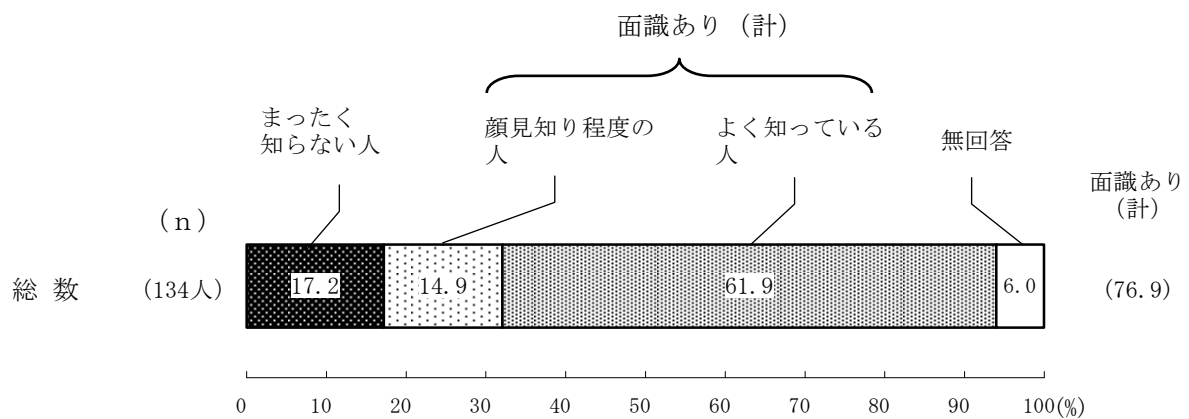
異性から無理やりに性交された経験（女性のみ）

女性の8%は異性から無理やりに性交された経験がある



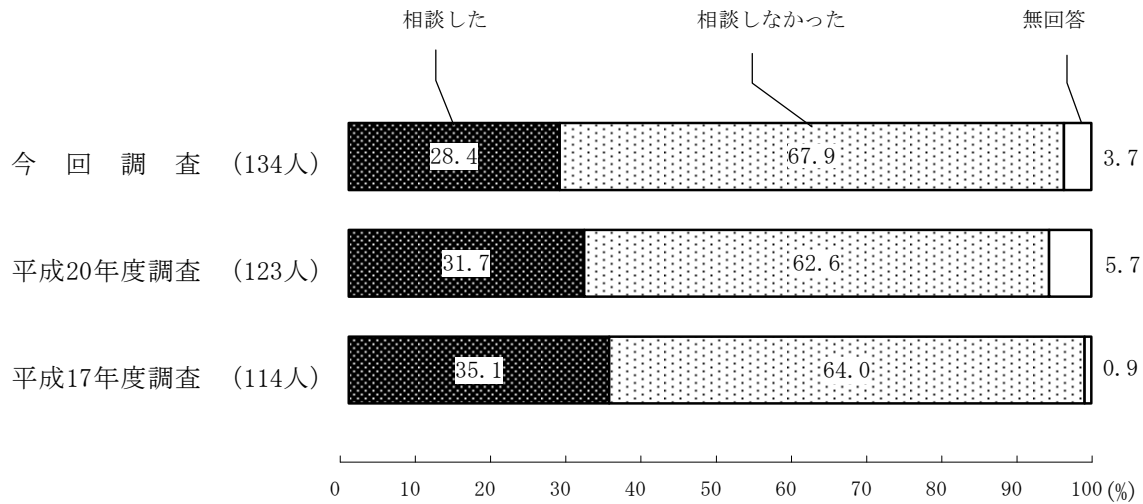
加害者との面識の有無

約4人に3人は加害者と面識があった



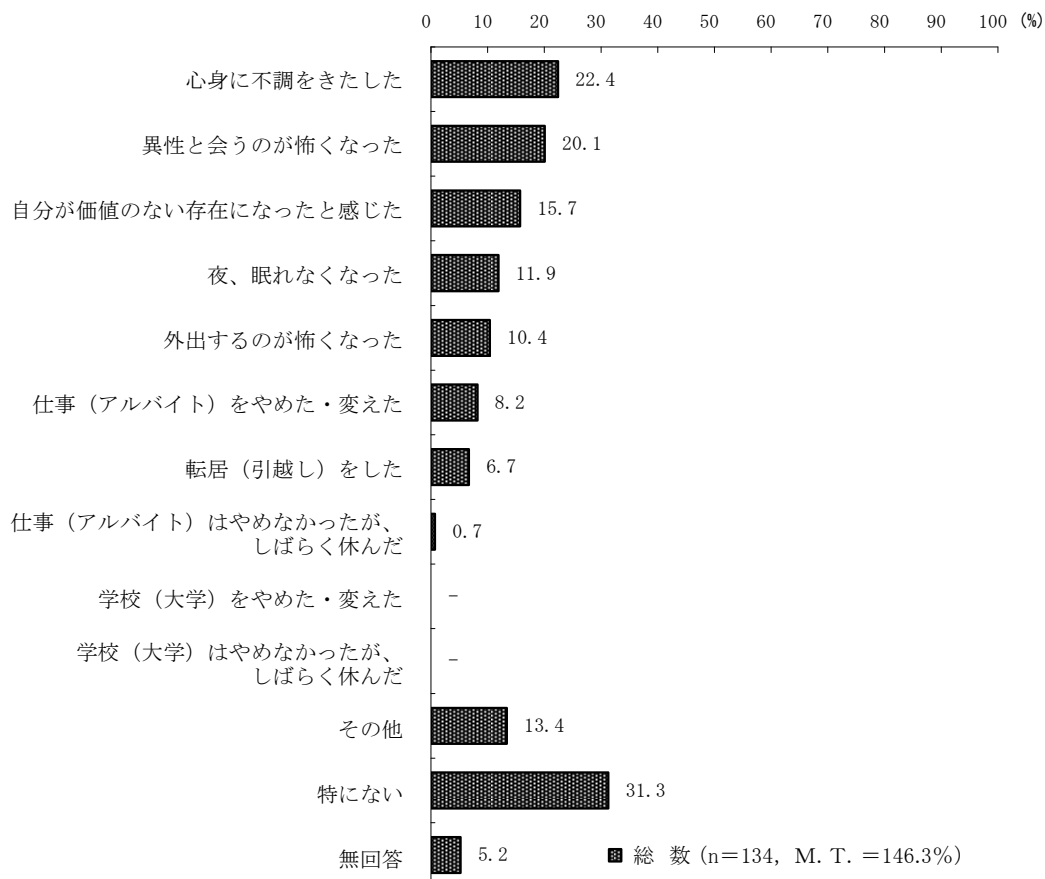
異性から無理やりに性交された被害の相談の有無 — 時系列比較

被害を受けた女性の約7割はどこにも相談していない



異性から無理やりに性交された被害による生活上の変化(複数回答)

被害を受けた女性の約7割に生活上の変化があった





内閣府男女共同参画局推進課

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1

TEL : 03-5253-2111 (大代表)

FAX : 03-3592-0408

ホームページ <http://www.gender.go.jp/>